



70歳を迎えての一年、体調の変化を身にしみて感じるようになりました。人間とは愚かなもので、いかなることにも、その身にならなければ伝わってこないものが多いです。

こと健康のことともなれば尚更のこと、かつては先輩たちの愚痴にも思っていたつづやきが、今は身にしみて頷けるようになってきました。

さて今年も残すところあとわずかとなりました。本山では報恩講が11月21日～28日の8日間にわたって勤まります。

全国の末寺においても本山の報恩講を前後に執り行われますが、岐阜教区第11組においても11月から12月にかけて毎週のように執り行われています。光受寺は12月の10日に執行する予定になっておりますが、光受寺のみならず近隣のお寺へのご参詣をお勧めいたします。

11組門徒会からも、その願いが、ご門徒の皆様に届くようにと、14ヶ寺の報恩講の日時がまとめられ各寺にお知らせがありました。今年一年を振り返りながら、御恩報謝の思いを深めていただけたらと思っています。(下記)

十二月十日(日) 午前午後

報恩講 法話 K S氏

同日 二時より 門徒総会

門徒総会は寺の運営にかかわる大切な行事です。また同時に真宗門徒であることの自覚をもつ場でもあります。おおくの方々のご出席をお願いいたします。

報恩講・親鸞聖人は、弘長二年十一月二十八日(平二百年一月一六日)に亡くなられました。報恩講とは親鸞聖人の御命日の法要ですが、阿弥陀如来として聖人への報恩謝徳のための法要です。報恩謝徳とは恩に報いるということです。どのような恩であるかと言いますと、如来

大悲の恩徳と師主知識の恩徳という二つの恩徳です。

聖人自身が如来大悲の恩徳を深く感得せられた歡びを、歎異抄に弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひこえに親鸞一人がためなりけり」と述べられています。阿弥陀様の願をよくよく考えてみれば、私一人を救うためであったのだと。

師主知識の恩徳とは、その阿弥陀如来の願いを私まで届けてくださった人を師主と呼びます。親鸞聖人にとつては、七高僧はじめ多くの善智識であり、私たちにとつては直接的には親鸞聖人を言つてよいでしょう。

この二つの恩に報いるのが報恩講の意義なのです。

私たちは阿弥陀様の前に身を置き、なむあみだぶつと称える。それが私たちにできる報恩なのであります。

岐阜教区第十一組 報恩講日程

本来寺 十一月五日(日)	廣専寺 十二月九日(土) 十日(日)
善了寺 十一月十八(土) 十九日(日)	等学寺 十二月十日(日)
蓮泉寺 十一月二十六日(日)	仁成寺 十二月十日(日)
入徳寺 十二月二日(土)	満福寺 十二月十四日(木) 十五日(金)
西来寺 十二月三日(日)	本正寺 十二月十七日(日)
願長寺 十二月三日(日)	先衆寺 平成三十年二月十日(土) 十一日(日)
廣蓮寺 十二月三日(日)	

お時間がございましたら、ぜひお参りいただけたらと思います。



私どもは、ふだん何事もあたりまえとして、格別の味わいを感じることがありません。私どもにとって最も大切な信心の目覚めは、ある日の意味「を」をいへり味わひいふから生まれてくるものと思ひます。

私は夜、床に就くと、しばひの間、自分の心臓の鼓動を聴くことが出来ます。心臓の動きについては、日中にほんたう意識する事はありませんが、静かに脈拍を聴くことが、一日中休まず働き続ける心臓に自ずと感謝の念が湧いてきます。

今年二月、八十二歳の誕生日に、いよいよ生まれてから今日まで心臓はどれだけ働き続けたのか計算してみました。昭和十年に生まれてから八十二歳の誕生日までに二十九億九千万回働いたこととなります。今年十一月一日の時点では実に二十億一千八百万回となります。心臓は八十二年間昼も夜も一秒の休みもなく働き続けていたわけで、その驚異的な数字には、ただ敬服のほかはありません。自ずと「ありがとうございます」と、感謝の念が湧きだしてきます。普段は無頓着ですが八十二年間、心臓の動きを支えられて生かされてきたこととなります。

このように体の動きに注目するときは、むろむろに「この言葉が浮かび上がります。朝の目覚め、夜の寝つき、トイレに行く、お腹がすく、疲れるなど、みな「ひこり」の働きです。まさに生かす働きです。私どもはこのような日々を生かす働きのもとで健全な生活をいただいているわけです。守られ生かされることの感謝、念仏を何回となく思い返し、味わいの日々を送りたいものと切に思ひつゝの頃です。



今月の掬小板

煩惱熾盛の衆生「歎異抄」



欲や怒りの煩惱が燃えさかしているのが人間である。このように、この煩惱を抱えたまま救わねば、道をもめむかたにいつたかたの心ころの阿弥陀如来のため。

し連絡

来月十一月の学習会は、お休みです。また、喫茶日 毎週金曜日)も同様です。

●お磨きのし協力をお願いします。

期日 十一月一日(金)

時間 九時より

お厚用意いたしております。

よろしくお願ひいたします。

来月はいよいよ師走となります。

今年一年振り返りみますと、いろいろありましたが、この生かすことの不思議さを感じています。

いかになるか分からない人生をかみゆめながら、今日一日、一時一時をかけがえのないものとして生きました。

多くの出会いがあり、多くの別れもあり、いづれも尊い縁として、心に刻まれたこととします。

合掌